

# 「ふれあい看護体験」を開催しました



病院食を食べながらのミーティング



高知県から委託を受けた高知県看護協会の主催で、  
県内の高校生を対象とした  
「ふれあい看護体験」が今年も実施されました。



この体験では患者さんとのふれあいを通じて、看護することや助け合うことの大切さを知ってもらいながら、病院関係者との交流をはかり、医療や看護のあり方を共に考えてもらうことを目的としています。今年度も参加希望者が多く、7月28日に18名、8月3日に20名と、2日間で合計38名の参加となりました。

看護衣に着替えた高校生は、楠瀬伴子看護部長から「一日看護師」の委嘱状を渡された後、体験先の看護師長と一緒にそれぞれの担当部署に向かいました。

周産母子センターで体験した高校生は、手洗いを行った後、説明を受けながら看護師の業務を見学しました。新生児の入浴場面では、看護師の指示に従ってタオルを用意したり、足を洗ったりしながら、初めて触れる赤ちゃんへのケアを緊張しながらも行っていました。

一般病棟では、それぞれ担当の看護師の指導のもと、患者さんの身の周りのお世話をしたり、話し相手になったり、昼食時の配膳を手伝ったりと、多岐にわたる業務を体験しました。看護師からの説明やアドバイスに真剣に耳を傾けながら熱心に取り組む一方で、手洗いの回数の多さや、患者さん一人一人に対する配慮に驚いていました。

体験終了後は、看護師達と一緒に病院食を食べながら体験内容や将来の夢について語りあうなど、参加した高校生それぞれにとって、貴重な経験となったようでした。



▲配膳の説明を受ける高校生



◀新生児を抱く高校生